

Transit

Fujinaga Kakuya

藤永 覚耶

2018年 11月30日(金) _ 12月16日(日) / 休廊

11:00 - 19:00 / 土のみ20:00まで

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

2006年に京都嵯峨芸術大学芸術学部造形学科版画分野を卒業、2008年に愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻を修了した藤永覚耶(ふじなが・かくや/1983年・滋賀県生まれ)は、絵画・版画・写真・染色のテクニックや現象を横断的に用いながら、「認識の外の領域」への興味を始点とした作品制作に取り組んでいます。

藤永はこれまで、アルコール染料インクにより布に点描し、そこに溶剤を吹きかけることでインクを滲ませるテクニックをベースとした作品制作に取り組んできました。これらの多くは「何らかの」写真イメージを出発点に、それを目と手によって染料のドットに置き換えて描画し、溶剤によって滲みや動きを与えたもので、写真が持っていた具体性や固有性は色の粒に置換えられ、さらに溶けて曖昧になりながらも「何か」であることを放棄しない、いわば具象と抽象の狭間に独自の像を立ち上げます。また、それは鑑賞者の認識や記憶、作品との鑑賞距離や展示空間の環境などの影響を受けながら、それぞれにとっての「何かのイメージ」として、主観と客観の狭間に生成されます。

本展展示作品となる《Transit》シリーズは、近年の藤永の新たな取り組みによるものです。これは、30mm程度の厚みを持った木の丸太の片面に、版画技法によって刷られたイメージ(インク)が、浸透圧と毛細管現象により木の内部に沁み、反対側に像として現れるものです。「藤永の認識や想像によって選択された何らかのイメージ(テレビ映像のキャプチャ)」は、自然現象のプロセスに投げ出されることで偶発的なノイズを持ち、そこに個的な背景などが希釈された「何らかの像」として浮かび上がります。そして、それは鑑賞者の認識や想像・記憶などに紐づくことで「それぞれが掴み取った新たなイメージ」として認識されることとなります。

また、本展において藤永は、木に刷られた[イメージ]を見せる版画、そこに起こった[プロセス]を記録した映像、結果として現れた[像]である丸太の3つを要素として、それぞれの作品《Transit》を構成しています。そして、それらが各フロア分散して展示されることで、鑑賞者はそれぞれの関係や因果への想像を促されます。

本展および作品のタイトルでもある[Transit=通過する]は、木の中をイメージが通過して現れることの意であるとともに、藤永のイメージが、鑑賞者へと[Transit=移り変わる・乗り継ぐ]することの意であるともいえるのではないのでしょうか。

藤永 覚耶 Fujinaga Kakuya

<http://kakuyafujinaga.com>

本展で展示する《Transit》シリーズは、木の丸太の片面にまずイメージを刷る。その図像をつくるインクは毛細管現象により、木の内部を通過し、反対側に「像」を浮かび上がらせる。

自然現象を経て現れる「像」は、情報量としては最初の図像から間引かれたものだ。だがそれゆえに、私たちの意識・無意識と結びつき、内側に「それぞれのイメージ」が現れるのではないだろうか。

そして、私たちはこの作品の表面しか見ることができず、中で何が起きているかは知ることができない。

1983 滋賀生まれ
2006 京都嵯峨芸術大学 芸術学部造形学科版画分野 卒業
2008 愛知県立芸術大学 大学院美術研究科油画専攻 修了

個展

2018 Transit (masayoshi suzuki gallery / 愛知)
2015 STAIN (Gallery Den mym / 京都)
2013 空即是色 -vanity is color- APMoA Project, ARCH Vol.6 (愛知県美術館 展示室6ほか / 愛知)
2012 とどまり ゆらめく keeping : moving (Gallery PARC / 京都)
-- foliage (masayoshi suzuki gallery / 愛知)
2011 -into the water - (GALLERY GOHON / 愛知)

主なグループ展

2017 時間の感触 (masayoshi suzuki gallery / 愛知)
2016 INTERWOVEN~編み込まれた世代~ (名古屋市民ギャラリー矢田 / 愛知)
-- 滋賀県次世代文化賞受賞者展 (滋賀県立近代美術館ギャラリー / 滋賀)
-- THE NEXT 次代を創る10人の表現者たち (電気文化会館5Fギャラリー / 愛知)
2015 色の底・記憶の淵 藤永覚耶 石川裕敏 2人展 (masayoshi suzuki gallery / 愛知)
2014 VANISHIG POINT 消滅点 (Gallery PARC / 京都)
-- BIWAKOビエンナーレ2014 (近江八幡・天籟宮 / 滋賀)
-- 落石計画第7期 残響 (旧落石無線通信所 / 北海道)
2010 アーツチャレンジ2010 (愛知芸術文化センター)
-- STAY -常懐荘にて- (旧竹内邸・常懐荘 / 愛知)
2008 Thinking Print vol.2 - もうひとつの写真表現 - (京都芸術センター)

展示作品

○2F プロジェクション、モニター作品 / 3F 東側壁面設置作品

Transit [line]

2018 インク、白樺/シルクスクリーン、毛細管現象、映像

○3F 南側壁面(額装4点)展示作品 / 4F 北側壁面(4点)展示作品 いずれも左から

Transit [solaris]

2018 インク、白樺/シルクスクリーン、毛細管現象、インク、いづみ/シルクスクリーン、映像

Transit [man]

2018 インク、白樺/シルクスクリーン、毛細管現象、インク、いづみ/シルクスクリーン

Transit [have]

2018 インク、白樺/シルクスクリーン、毛細管現象、インク、いづみ/シルクスクリーン

Transit [game]

2018 インク、白樺/シルクスクリーン、毛細管現象、インク、いづみ/シルクスクリーン

○4F 東側壁面(1点)展示作品

Transit [stone]

2018 インク、白樺/シルクスクリーン、毛細管現象

○4F 階段横仮設壁展示作品

Transit [gather]

2018 インク、白樺/シルクスクリーン、毛細管現象、映像

○4F 南側壁面(1点)展示作品

Transit [circle]

2018 インク、白樺/シルクスクリーン、毛細管現象